

レジオネラ属菌の検査結果（令和5年度）

レジオネラ属菌によって引き起こされるレジオネラ症は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」で四類感染症に分類されています。

レジオネラ症は肺炎型とポンティアック熱型が主要な病型で、肺炎型では死亡例も報告されています。一方、ポンティアック熱型はインフルエンザに似た熱性疾患で自然治癒するため発見されづらく、報告例が少ない傾向にあります。

レジオネラ属菌は湖沼の水や土の中に生息する常在菌で、土ぼこりなどで運ばれて噴水などの水景設備や冷却塔、浴場施設などの人工的な水環境下でアメーバを介して増殖します。このレジオネラ属菌によって汚染された水のエアロゾルを人が吸い込んだり、汚染水が誤って気道に入ったりすると感染する可能性があります。

レジオネラ症の発生・拡大を防止するには、原因施設を特定し、レジオネラ属菌を殺菌消毒することが重要です。患者の行動調査で利用施設を聞き取り、施設の水や水回りのふきとり検体を採取して、レジオネラ属菌検査を行って感染源を特定します。レジオネラ属菌が検出された施設においては、保健所が消毒等の衛生対策について指導を実施しています。

令和5年度は、36施設、208検体（水試料96、ふきとり試料112）のレジオネラ属菌検査を行いました。検査はLAMP法を用いた遺伝子検査と培養法の2種類を行いました。

検査を実施した対象施設数は、患者自宅17、高齢者福祉施設12、公衆浴場3、医療機関1、スポーツクラブ1、寮1、事業所1でした。

検査結果はLAMP法で遺伝子が検出されたのは12施設、21検体（水試料9、ふきとり試料12）で、培養法で菌が検出されたのは4施設、8検体（水試料5、ふきとり試料3）でした。培養法で菌が検出された8検体のうち7検体がLAMP法陽性、1検体がLAMP法陰性でした。LAMP法または培養法で菌が検出された検体の施設と検体の内訳、菌同定結果は表に示したとおりです。

このうち、環境から分離された菌株と患者から分離された菌株の菌種と血清群が同じ場合パルスフィールドゲル電気泳動法による分子疫学的解析を実施しますが、令和5年度は泳動パターンが一致した事例が3事例ありました（表中No.3、4、6）。いずれも患者喀痰由来とふきとりや水検体由来の *Legionella pneumophila* SG1が一致しました。

表 レジオネラ属菌が検出された事例の検出結果

No.	施設種類	検体名	LAMP法	培養法
1	患者宅	追い炊き口ふきとり	+	(-)
2	患者宅	浴槽給湯口ふきとり	+	(-)
3	患者宅	カラン口ふきとり	+	(-)
		浴槽喫水面ふきとり	+	+(<i>L. pneumophila</i> SG1)※
		浴槽水	+	2,500cfu/100mL(<i>L. pneumophila</i> SG1)※
4	スポーツ クラブ	シャワーヘッドふきとり	+	(-)
		浴槽喫水面ふきとり	+	(-)
		浴槽水	+	20cfu/100mL(<i>L. pneumophila</i> SG1※、SG6)
5	公衆浴場	浴槽喫水面ふきとり	+	(-)
6	公衆浴場	浴槽水	+	60cfu/100mL (<i>L. pneumophila</i> SG1、SG4、血清群不明)
		シャワー水	(-)	20cfu/100mL (<i>L. pneumophila</i> SG1)※
		シャワーヘッドふきとり	+	(-)
		浴槽喫水面ふきとり	+	(-)
7	患者宅	浴槽水	+	3,800cfu/100mL(<i>L. pneumophila</i> 血清群不明)
		浴槽喫水面ふきとり	+	+(<i>L. pneumophila</i> 血清群不明)
		浴槽追い炊き口ふきとり	+	+(<i>L. pneumophila</i> SG6、血清群不明)
8	公衆浴場	浴槽水	+	(-)
9	高齢者 福祉施設	居室加湿器タンク下部 ふきとり	+	(-)
10	高齢者 福祉施設	シャワー水	+	(-)
		洗面台カラン水	+	(-)
11	高齢者 福祉施設	浴室カラン水	+	(-)
12	患者宅	浴槽水	+	(-)

※パルスフィールドゲル電気泳動法で患者喀痰由来株と一致

培養法単位: cfu/100mLは100mL当たりの菌数(cfu: colony forming unit)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】